

第29回（令和五年度）定点調査

「水にかかわる生活意識調査」結果レポート

ライフライン料金の妥当性と許容度に関する新規調査を実施

水道料金は、3人に1人以上が「妥当だと感じている」

＝調査期間：2023年5月30日(火)～6月5日(月)／対象エリア：東京圏・大阪圏・中京圏＝

ミツカン水の文化センター（株式会社Mizkan Partners 広報部内）では、今年6月に、東京圏（東京・神奈川・埼玉・千葉）、大阪圏（大阪・兵庫・京都）、中京圏（愛知・三重・岐阜）の在住者1,500名を対象とした「水にかかわる生活意識調査」を実施し、集計結果をまとめました。

本調査は、1995年の第1回以降、日常生活と水のかかわりや意識を明らかにすることを目的とした定点調査として、継続性を重視する中に、その時々の特ピックを取り入れながら調査を実施してまいりました。

今年は、昨年のリニューアルにより追加した、水への関心や感謝、水に関する体験や経験といった生活者の水への関心度を明らかにするための設問の継続に加え、水と災害にまつわる設問について2年ぶりに調査しました。さらに、昨今の値上げラッシュを受け、水道をはじめとしたライフライン料金の妥当性や許容度を探る趣旨の調査を実施しました。また、今年も、当センターのアドバイザーであり、東京大学 大学院工学系研究科 教授の沖大幹先生に、調査結果の解説をいただきました。

なお、今年の調査データおよび過去（第1回～28回）の集計概要など詳細な情報は、ミツカン水の文化センターのホームページ（<https://www.mizu.gr.jp/>）で公開しています。

《調査結果》

【1】水への高関心度層に若者多し

…「水にどの程度関心があるか？」に対し、
20代・30代は「とても関心がある」が10%超で、他の年代を上回る結果に。

【2】不安な災害で「線状降水帯」が急上昇

…「不安に感じる災害は？」に対し、
「線状降水帯」の回答率が前回は7.1ポイント上回る24.4%と大幅増加。
順位も12位→4位に急上昇。

【3】水道は、料金妥当で値上げも許容？

…各ライフラインの「料金について、現在どのように感じているか？」に対し、
水道料金は、3人に1人以上が「妥当だと感じている」と回答。
…「料金の値上げを受け入れやすい順位は？」の「1位」回答率において、
水道料金が46.5%でトップ。

◆沖大幹先生による解説 ～Oki's View～

💧水への関心：関心を左右するものとは？

💧災害：最近よく耳にする「線状降水帯」は以前から発生していた？

💧水道料金：持続可能な水の安定供給のために—

【この件に関するお問い合わせ先】

ミツカン水の文化センター ホームページ内、お問い合わせフォーム（下記URL）よりお願いいたします。

<https://www.mizu.gr.jp/customer/group/mizu.html>

※ミツカングループでは、テレワーク勤務を推進しております。

誠に恐縮ですが、ホームページからのお問い合わせへのご理解とご協力の程、何卒よろしくお願い申し上げます。

《結果の抜粋と掲載ページ》

| | |
|--|-------|
| ■ 調査概要 | 2ページ |
| ■ 水への関心 | |
| ◇ 水への高関心度層に若者多し…トピック【1】 | |
| 関心を醸成するのは、幼少期の水とのふれあいか？ | 3ページ |
| ◇ 水を“大切だと思っている人”は9割超 | 4ページ |
| ◇ 水への関心がなくてもありがたさを感じている人が多数 | 4ページ |
| ◎ 沖大幹先生による解説～Oki’s View～ ①水への関心 | 5ページ |
| ■ 水と災害 | |
| ◇ 3人に1人以上が断水・濁水の経験あり。60代は4割超 | 7ページ |
| ◇ 被災で水に困った経験がある人は、20代と大阪圏に多い | 7ページ |
| ◇ 水で困った・苦労したこと、災害による断水に関する項目で大阪圏の数値の高さ目立つ | |
| 断水・濁水経験者は、災害・非災害を問わず数値が高い | 7ページ |
| ◇ 水のありがたさを感じるとき、水で困った経験が水への感謝につながる？ | 8ページ |
| ◇ 水の災害に“不安を感じている人”が6割超 | 8ページ |
| ◇ 不安な災害で「線状降水帯」が急上昇…トピック【2】 | 8ページ |
| ◇ 災害時の水の備え、水の災害に“不安を感じている人”と“感じていない人”に明確な差 | 9ページ |
| ◎ 沖大幹先生による解説～Oki’s View～ ②災害 | 10ページ |
| ■ 節水の意識と行動 | |
| ◇ 節水の意識と行動ともに40代が減少して20代・30代寄りの数値に | 11ページ |
| ◇ 節水を行う要因には罪悪感も関与？ | 11ページ |
| ◇ 日常生活で実践していることは上位項目に変化なし | 11ページ |
| ■ 水道水に関する意識 | |
| ◇ 水道水の評価は、10点満点回答者が減少し平均点がやや低下 | 12ページ |
| ◇ 水道水への不満は「不満なし」が5割に迫る勢い。「料金高い」は3割下回る | 12ページ |
| ■ 水と生活・文化 | |
| ◇ 3人に1人以上が水道料金は「妥当だと感じている」…トピック【3】 | 13ページ |
| ◇ 値上げを最も許容できるのは「水道料金」…トピック【3】 | 13ページ |
| ◇ 知っている祝日・記念日は「水の日」認知率6.0%で過去最高の更新ならず | 14ページ |
| ◎ 沖大幹先生による解説～Oki’s View～ ③水道料金 | 14ページ |

【調査概要】

第29回（令和五年度）「水にかかわる生活意識調査」

- ◆ 調査対象数 : 1,500人
- ◆ 調査対象者 : 東京圏(東京、神奈川、埼玉、千葉)、大阪圏(大阪、兵庫、京都)、中京圏(愛知、三重、岐阜)に居住する20代～60代の男女
- ◆ 調査方法 : インターネット調査
- ◆ 調査期間 : 2023年5月30日(火)～6月5日(月)
- ◆ 回収数(人) :

| | 東京圏 | | 大阪圏 | | 中京圏 | | 合計 | | 小計 |
|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-------|
| | 男性 | 女性 | 男性 | 女性 | 男性 | 女性 | 男性 | 女性 | |
| 20代 | 50 | 50 | 50 | 50 | 50 | 50 | 150 | 150 | 300 |
| 30代 | 50 | 50 | 50 | 50 | 50 | 50 | 150 | 150 | 300 |
| 40代 | 50 | 50 | 50 | 50 | 50 | 50 | 150 | 150 | 300 |
| 50代 | 50 | 50 | 50 | 50 | 50 | 50 | 150 | 150 | 300 |
| 60代 | 50 | 50 | 50 | 50 | 50 | 50 | 150 | 150 | 300 |
| 合計 | 250 | 250 | 250 | 250 | 250 | 250 | 750 | 750 | 1,500 |
| | 500 | | 500 | | 500 | | | | |

水への関心

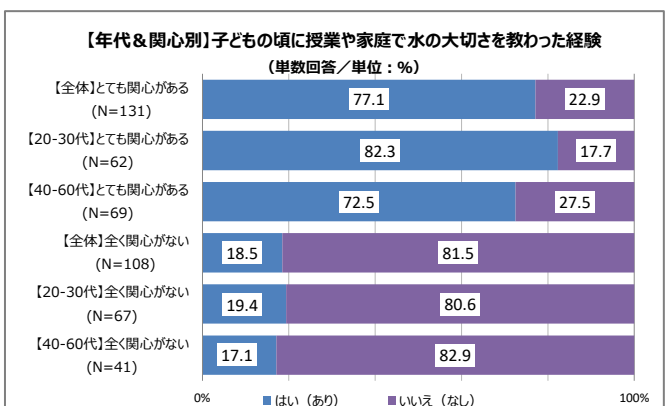
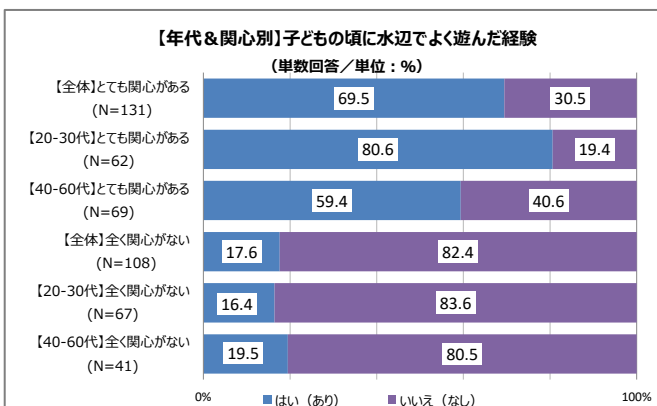
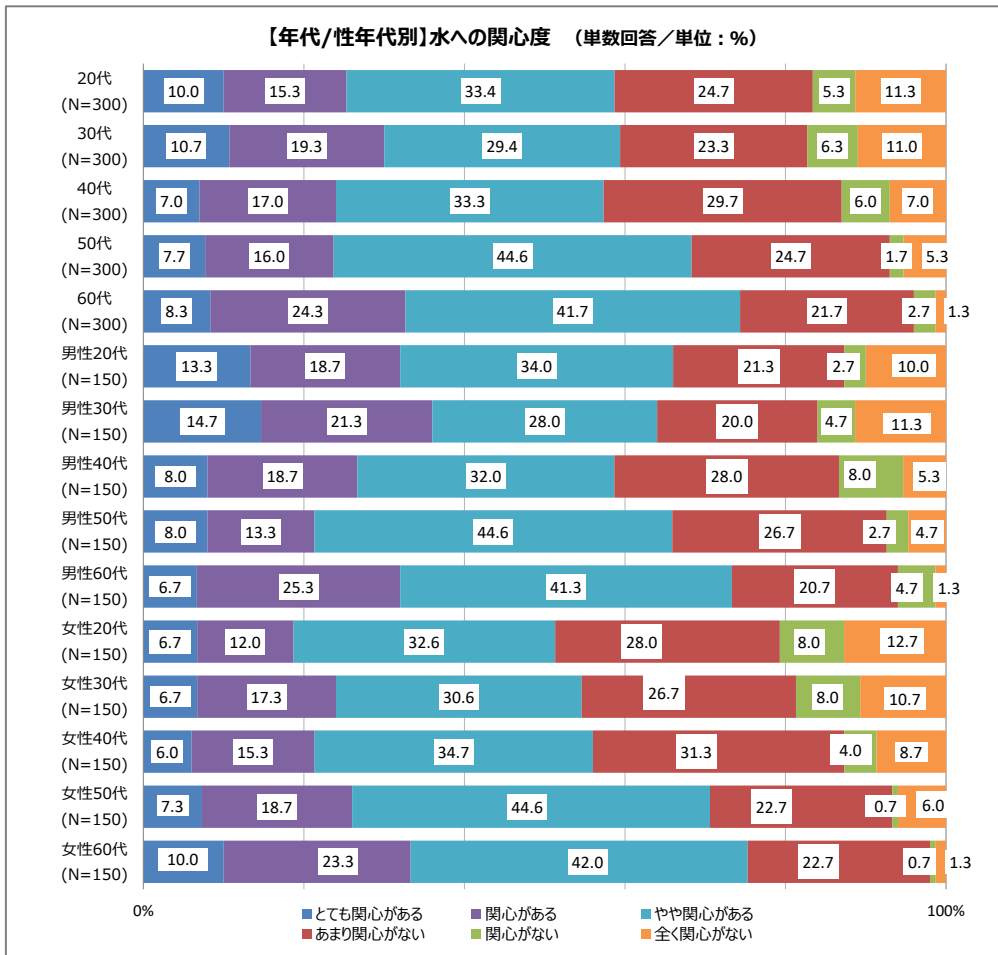
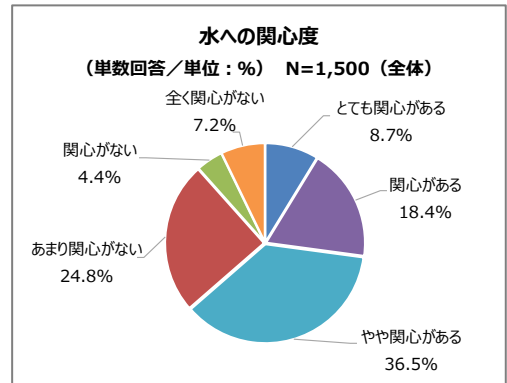
Q.水への関心度は？（6択）

◇水への高関心度層に若者多し

関心を醸成するのは、幼少期の水とのふれあいか？

水についてのどの程度関心があるか聞いたところ、「とても関心がある」8.7%、「関心がある」18.4%、「やや関心がある」36.5%となり、これらを合計した“関心あり層”は63.6%でした。「とても関心がある」を年代別にみると、20代が10.0%、30代が10.7%、40代が7.0%、50代が7.7%、60代が8.3%で、若年層の数値が高い傾向にありました。

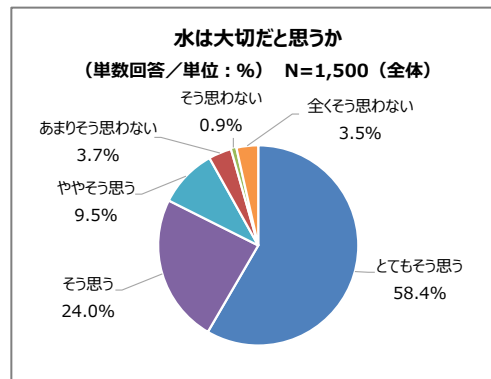
なお、20代・30代の「とても関心がある」回答者は、水に関する体験・経験において、①子どもの頃に水辺でよく遊んだ経験のある人（80.6%）や、②子どもの頃に授業や家庭で水の大切さについて教わってきた人（82.3%）の割合が40～60代（①59.4%、②72.5%）を大きく上回るなど、多くの人が幼少期に水とふれあう機会を持っていました。こうした経験が、水への関心の醸成につながっているのかもしれない。



Q.水は大切だと思うか？（6択）

◇“大切だと思っている人”は9割超

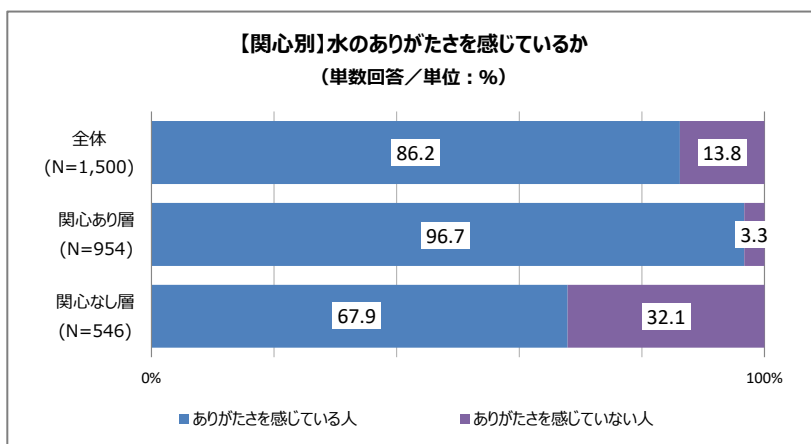
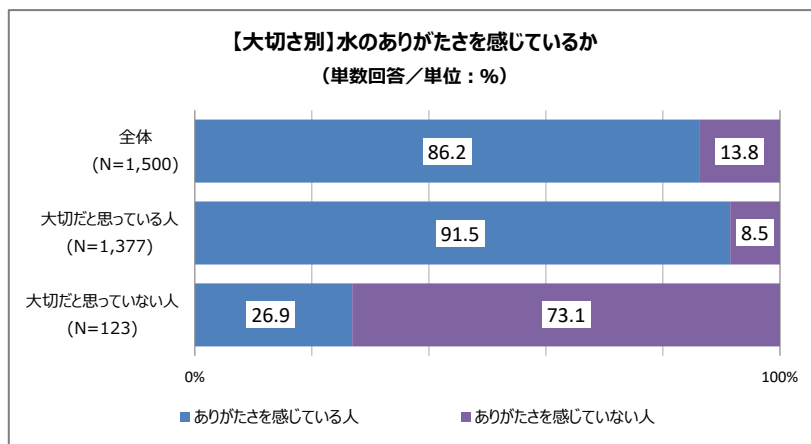
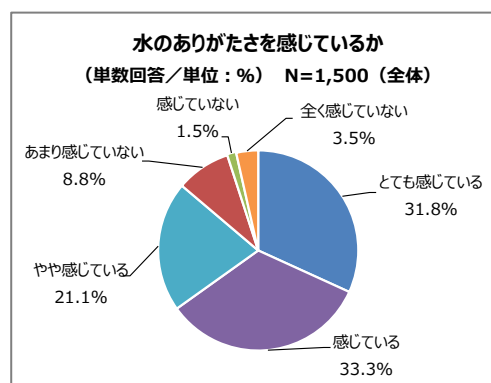
水は大切だと思うかをたずねたところ、「とてもそう思う」58.4%、「そう思う」24.0%、「ややそう思う」9.5%、「あまりそう思わない」3.7%、「そう思わない」0.9%、「全くそう思わない」3.5%となり、「とてもそう思う」「そう思う」「ややそう思う」を合計した“大切だと思っている人”が全体の91.9%を占めました。



Q.水のありがたさを感じているか？（6択）

◇水への関心がなくても、ありがたさを感じている人が多数

水のありがたさを日々の生活で感じているかについては、「とても感じている」31.8%、「感じている」33.3%、「やや感じている」21.1%となり、これらを合計した“ありがたさを感じている人”は86.2%でした。“ありがたさを感じている人”を水の大切さおよび、水への関心別にみると、大切さ別では“大切だと思う人”が91.5%、“大切だと思わない人”（「あまりそう思わない」+「そう思わない」+「全くそう思わない」）が26.9%だったのに対し、関心別では“関心あり層”の“ありがたさを感じている人”が96.7%、“関心なし層”（「あまり関心がない」+「関心がない」+「全く関心がない」）が67.9%と7割近くが関心は無くてもありがたさを感じていることがわかりました。

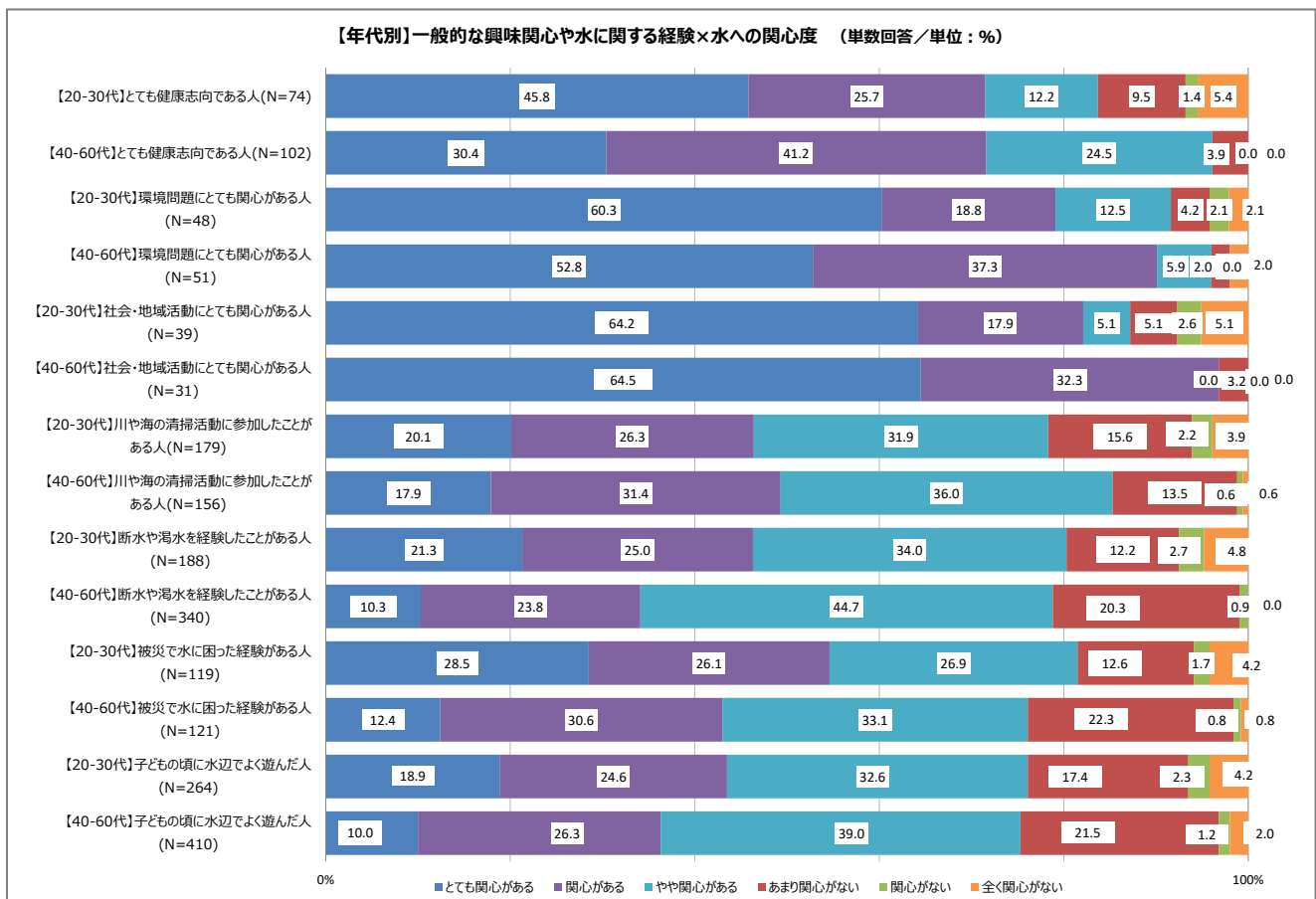


【水への関心】

水と言っても、蛇口をひねれば出てくる水道の水やトイレの水、風呂や温泉の水、コンビニで買うペットボトルや瓶入りの水などいろいろだ。雨だって川だって湖だって水といえば水だし、塩分はあるけれど海だって水だ。なので、「あなたは、水について、どの程度関心がありますか」といきなり聞かれても、困るのが普通だろう。

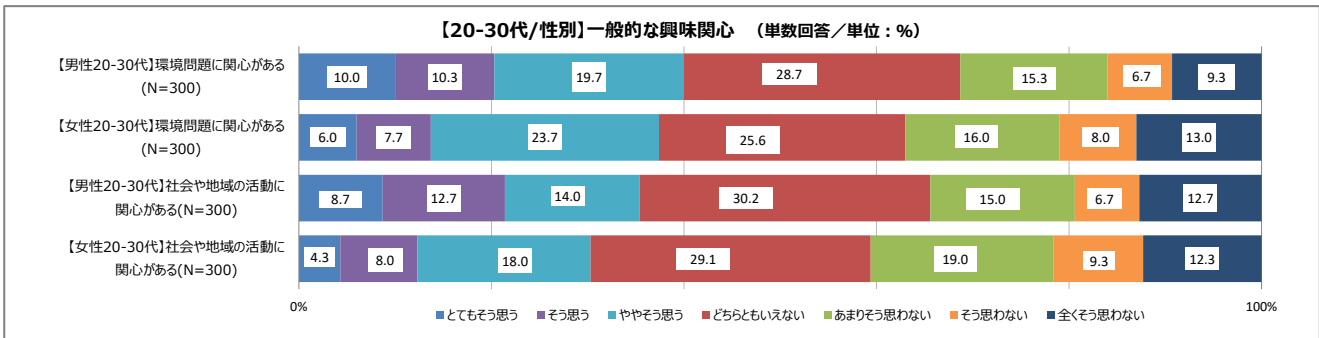
でもまあ、毎日何らかの形で接するし、健康にも関連しそうなので、とりあえず「やや関心がある」と答えておこう…という方が多いのは良く理解できる。年代があがるに連れて「全く関心がない」と答える割合が減るのも、シニア世代の方が健康や環境に関心があったり、水で困った経験があったりするからなのか、と想像がつく。

しかし、20代、30代は「とても関心がある」と答えた方々が10%もいらして、シニア層(40代以上)を凌駕している。しかも、女性ではなく若い男性に「とても関心がある」方が多い(3頁参照)。クロス集計の結果では、健康志向を自認し、環境問題に関心を寄せていて、断水や濁水を経験したことがあったり被災のため水で困った経験があったりする若者(20代、30代)の割合がシニア層よりも多く、そういう方々が水に関心があると答えている。



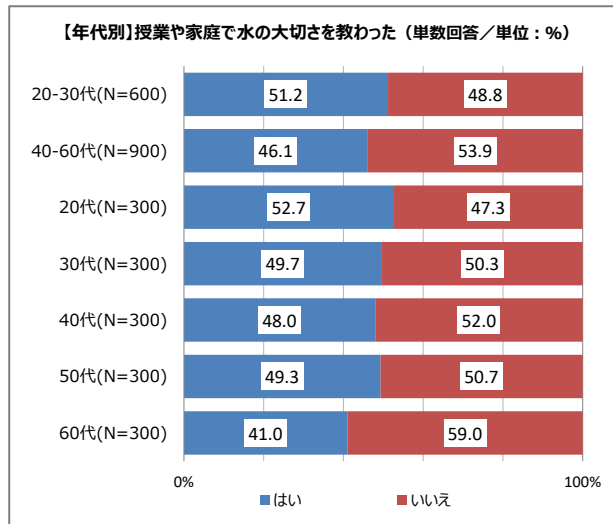
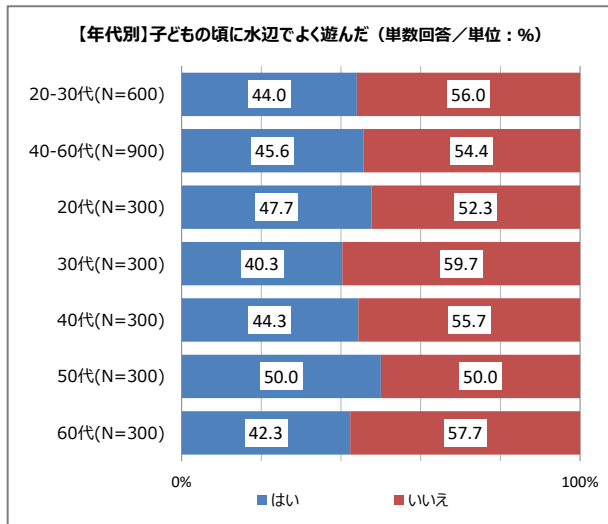
「社会や地域のための活動にとても関心がある」方の中で、水にとっても関心がある方の割合は若者(64.2%)もシニア層(64.5%)も変わらない。ただ、若者の中で「社会や地域にとても関心のある」男性が8.7%なのに対して女性は4.3%、「環境問題に関心がある」男性10.0%に対して女性6.0%といった違いが若者の男女差をもたらしている可能性がある。

一方で、「川や海の清掃など水に関する活動に参加したことがある」方の中で水にとっても関心がある方の割合も若者(20.1%)とシニア層(17.9%)であまり変わらないが値はずいぶん低い。川や海の清掃よりも、「社会や地域にとても関心のある」層の方が水にも関心を持ちやすいようだ。(次頁へ続く)



子供の頃に水辺でよく遊んだと答えた割合は若者で44.0%、シニア層で45.6%と変わらないにもかかわらず、子供の頃に水辺でよく遊んだと答えた方の中で水にとっても関心がある方は若者が18.9%、シニア層が10.0%で倍近く違う。

「子どもの頃に授業や家庭で水の大切さについて教わってきた」にはいと答えた方は60代41.0%、50代49.3%、40代48.0%、30代49.7%、20代52.7%と若い世代ほど水や環境についてきちんと習うようになった状況が察せられる。身近に親しめる水や自然があるし、水汲みの大変さは教えなくても骨身に染みているのでわざわざ教えなくても、というのは戦前の世代かもしれない。



水にとっても関心がある若者の82.3%が水の大切さについて教わっているのに対し、水に全く関心がない若者では水の大切さを教わった若者は19.4%である。シニア層でもそれぞれ72.5%、17.1%であり(3頁参照)、年齢を問わず教育が大事ということかもしれない。

教育に加えて水で困った経験と、健康、環境問題、社会や地域への関心を持っているかどうか水への関心を大きく左右している様子が今回の調査から伺える。

水と災害

Q.断水や渇水の経験をしたことがあるか？（2択）

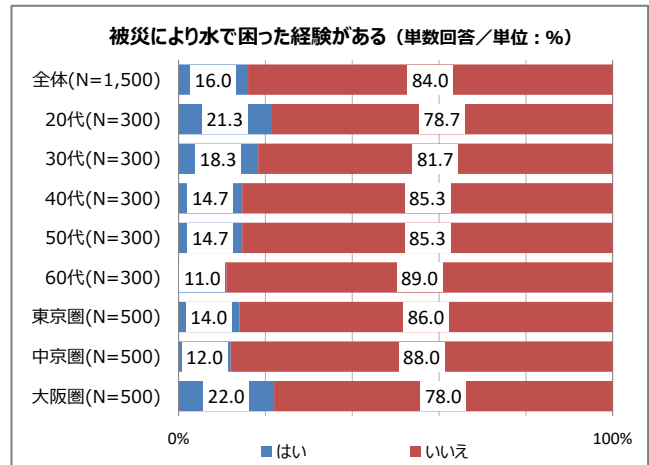
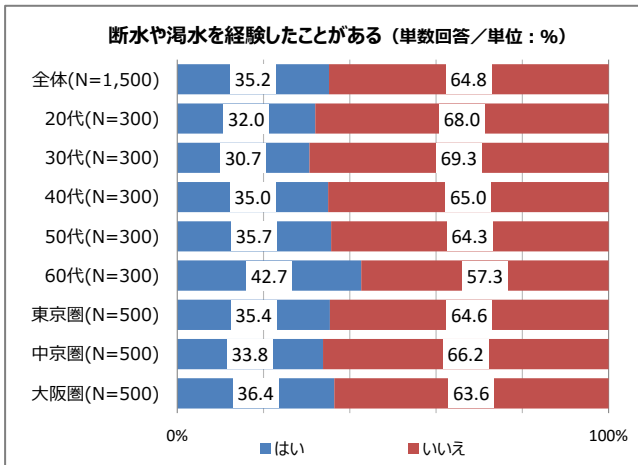
Q.被災により水で困った経験があるか？（2択）

◇3人に1人以上が断水・渇水の経験あり。60代は4割超

◇被災で水に困った経験がある人は、20代と大阪圏に多い

生活者の水にまつわる体験や経験を探る一環で、断水や渇水の経験や、被災により水で困った経験についてたずねたところ、「断水や渇水を経験したことがある」では35.2%、「被災により水で困った経験がある」では16.0%が「はい」と回答しました。

これらを年代別にみると、断水や渇水の経験がある人は、60代が42.7%で他の年代より7～12ポイント程度高かったのに対し、被災により水で困った経験がある人は、20代が21.3%で最も高く、断水や渇水の経験で数値が高かった60代は最も低い11.0%でした。また、居住地別では、断水や渇水の経験がある人は東京圏35.4%、中京圏33.8%、大阪圏36.4%と、大きな差異は見られませんでした。被災により水で困った経験がある人は大阪圏（22.0%）が東京圏（14.0%）と中京圏（12.0%）を大きく上回りました。

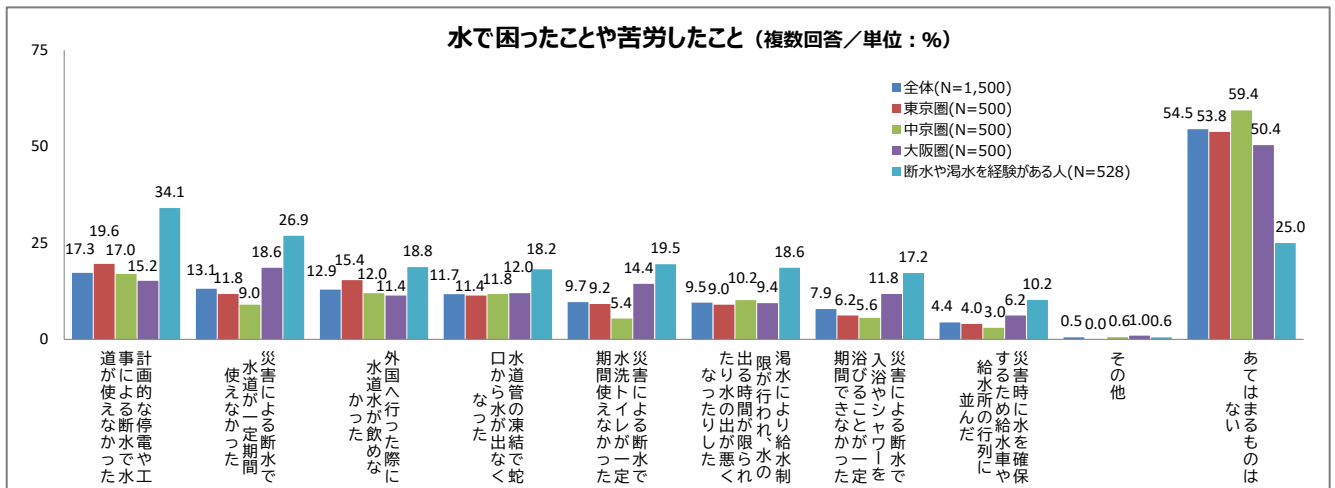


Q.水で困ったことや苦労したことは？（8択+その他+あてはまるものはない）

◇災害による断水に関する項目で、大阪圏の数値の高さ目立つ

断水・渇水経験者は、災害・非災害を問わず数値が高い

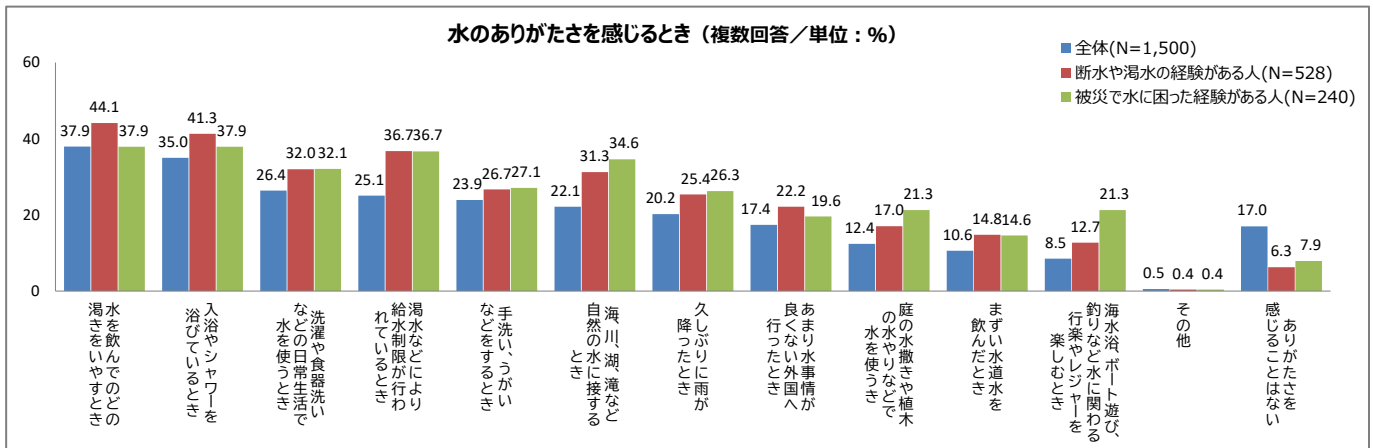
前述の断水や渇水の経験や、被災により水で困った経験の具体性を高めるべく、いくつかの事例を選択肢にあげ、実際にどのようなことで困り、苦労したかを聞いたところ、「あてはまるものはない」を除いて最も多かったのは「計画的な停電や工事による断水で水道が使えなかった」（17.3%）、2位「災害による断水で水道が一定期間使えなかった」（13.1%）、3位「外国で水道水が飲めなかった」（12.9%）となりました。居住地別では、大阪圏において「災害による断水で水道が一定期間使えなかった」（18.6%）、「災害による断水で水洗トイレが一定期間使えなかった」（14.4%）、「災害による断水で入浴やシャワーを浴びることが一定期間できなかった」（11.8%）といった、災害による断水項目での数値の高さが目立ちました。また、断水や渇水の経験がある人は、「計画的な停電や工事による断水で水道が使えなかった」（34.1%）、「災害による断水で水道が一定期間使えなかった」（26.9%）など、災害・非災害を問わず各項目で全体の数値を大きく上回りました。



Q.水のありがたさを感じるときは？（11択+その他+感じることはない）

◇水で困った経験が、水への感謝につながる？

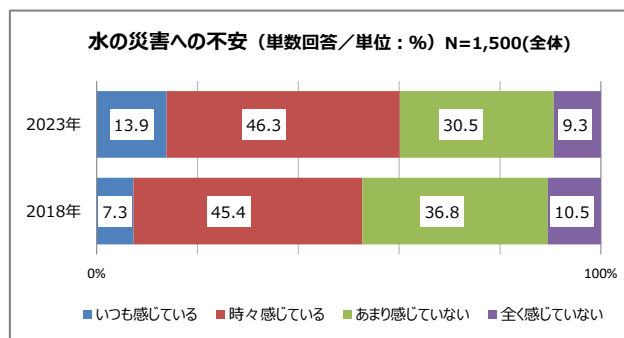
水のありがたさを感じるのはどのようなときかをたずねたところ、上位5項目は、1位「水を飲んでのどの渴きをいやすとき」（37.9%）、2位「入浴やシャワーを浴びているとき」（35.0%）、3位「洗濯や食器洗いなどの日常生活で水を使うとき」（26.4%）、4位「喝水などにより給水制限が行われているとき」（25.1%）、5位「手洗い、うがいをするとき」（23.9%）となりました。なお、①断水や喝水の経験がある人と②被災により水で困った経験がある人に着目すると、「喝水などにより給水制限が行われているとき」（①36.7%、②36.7%）や「海、川、湖、滝など自然の水に接するとき」（①31.3%、②34.6%）で全体を大きく上回ったのをはじめ、総じて数値が高い傾向にありました。この結果から、水で困った経験が、水を使い、ふれあうことへの感謝につながっていることがうかがえます。



Q.水の災害への不安は？（4択）

◇“不安を感じている人”が6割超

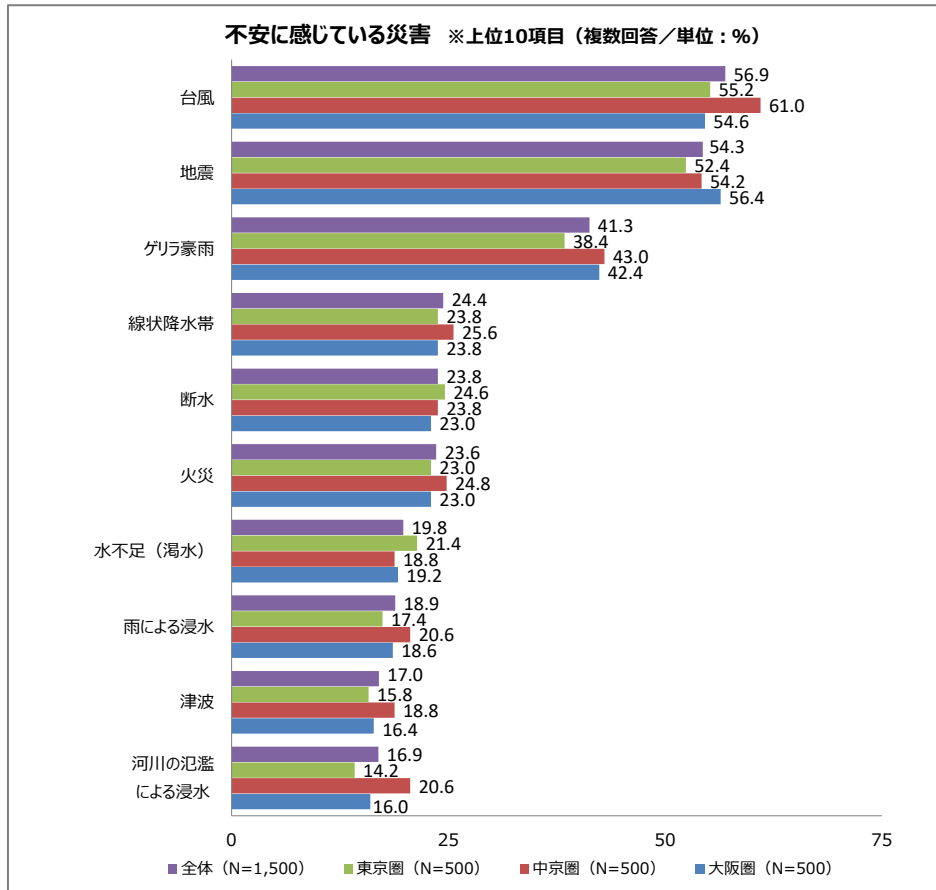
水の災害が起こることへの不安について聞いたところ、「いつも感じている」13.9%、「時々感じている」46.3%、「あまり感じていない」30.5%、「全く感じていない」9.3%で、「いつも感じている」と「時々感じている」を合わせた“不安を感じている人”が6割超（60.2%）となりました。5年前（2018年）の調査では、“不安を感じている人”（52.7%）と“不安を感じていない人”（「あまり感じていない」+「全く感じていない」で47.3%）が5割前後で拮抗していましたが、今年の調査では6：4に変化しました。



Q.不安に感じている災害は？（24択+その他+特に不安を感じたことはない）

◇「線状降水帯」が急上昇

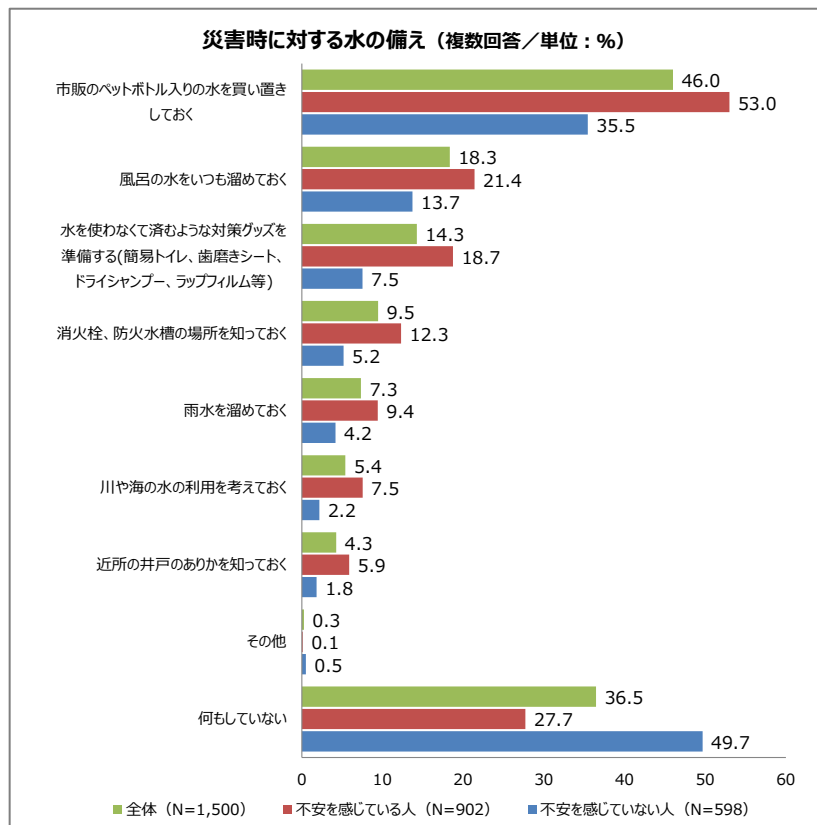
不安に感じている災害は、1位「台風」（56.9%）、2位「地震」（54.3%）、3位「ゲリラ豪雨」（41.3%）と、トップ3は前回調査した2021年と同様でしたが、「線状降水帯」が前回比7.1ポイント増の24.4%で12位から4位に急上昇。「線状降水帯」は、居住地別にみても東京圏23.8%（前回比7.6ポイント増）、中京圏25.6%（同8.2ポイント増）、大阪圏23.8%（同5.4ポイント増）と、各エリアで増加しました。この結果については、昨年から気象庁が気象情報で「線状降水帯」のキーワードを使った「線状降水帯による大雨の半日程度前からの呼びかけ」を発表していることにより、メディアの報道量が増えたことも影響しているものと推察されます。



Q.災害時に対する水の備えは？（7択＋その他＋何もしていない）

◇水の災害への“不安を感じている人”と“不安を感じていない人”に明確な差

災害時に対する水の備えは、全体では「市販のペットボトル入りの水を買置きしておく」（46.0％）が最も多く、次いで多かったのが「何もしていない」（36.5％）でした。これを水の災害が起こることへの不安の有無別にみると、「市販のペットボトル入りの水を買置きしておく」は、“不安を感じている人”が53.0％だったのに対し、“不安を感じていない人”が35.5％、「何もしていない」は、前者の27.7％に対し、後者が49.7％となるなど、両者の取り組みに明確な違いが見られました。

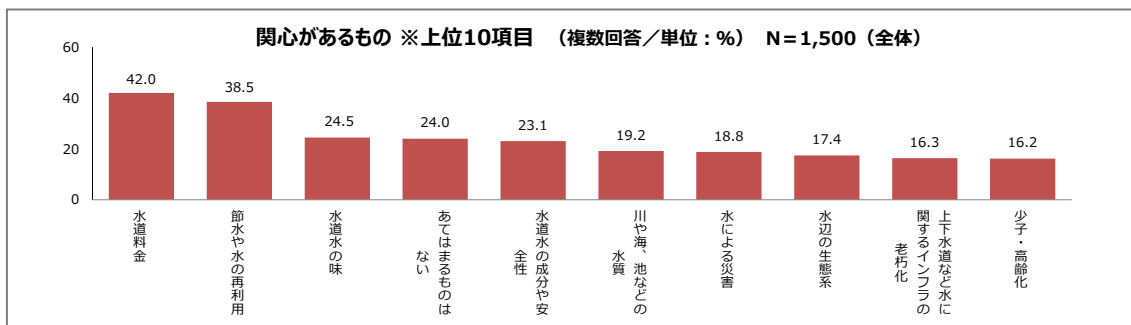


【災害】

「関心があるもの」という問いに対し、あてはまるものがある方の中では「水による災害」が18.8%で30項目中7位であった。水に限らず不安な災害全般についての複数回答(8～9頁参照)に対して、2015年には地震(59.3%)が僅差で台風(58.3%)を抑えていたところ、関西国際空港が浸水した2018年台風21号の大被害などを受けて2019年からは逆転し、今年も台風(56.9%)が地震(54.3%)を上回っていて、ゲリラ豪雨(41.3%)が3位で続く。

線状降水帯(24.4%)が2021年(17.3%、12位)から大幅に順位をあげて4位につけたのは、2022年6月から線状降水帯の発生の可能性を気象庁が半日前に予報するようになり、一般に耳にする機会がさらに増えたおかげだろう。以前は発生していなかった線状降水帯が気候変動によって生じるようになったというわけではなく、気象レーダーによる観測網が日本全体を覆い、高い時間・空間解像度で降水分布の挙動を目の当たりにできるようになった。そして、発達した積乱雲が時として地形と相互作用しつつ次の積乱雲を生じさせて同じ場所に激しい雨が数時間降り続くことになるといったメカニズムの理解が進んだため、洪水や土砂災害につながる可能性が高い現象として危機管理のために耳新しい名前が巷間に普及させようとした結果、これまでのところ思惑通りに進んでいる、ということだろうか。

ゲリラ豪雨は専門用語ではないが、いわゆる集中豪雨の中でも予測が困難なものを「ゲリラ」豪雨と呼ぶことが多い。そのため、リスク認知的には恐ろしいと感じやすいゲリラ豪雨であるが、線状降水帯の方がそれなりに広い地域を豪雨が覆い、時間的にも長く続いたため、いずれはゲリラ豪雨を上回るくらいにまで線状降水帯への関心が高まって欲しいものである。



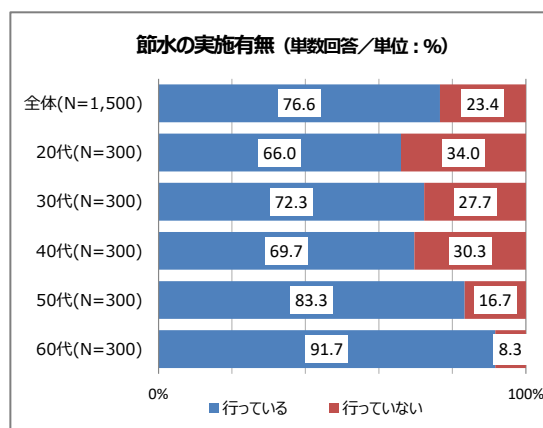
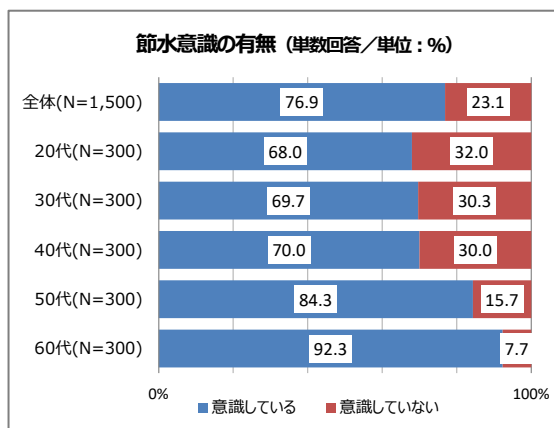
節水の意識と行動

Q.日常生活で節水を意識しているか？（2択）

Q.日常生活で節水を実施しているか？（2択）

◇意識と行動、ともに40代が減少して20代・30代寄りの数値に

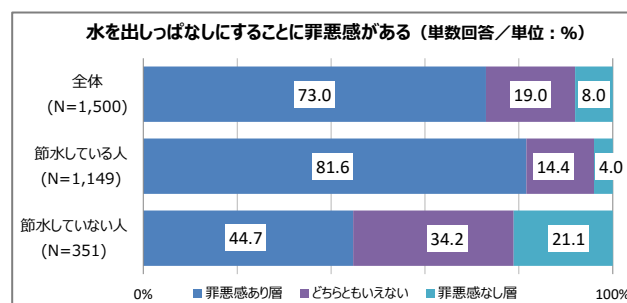
節水への意識と行動は、節水を「意識している」が76.9%、節水を「行っている」が76.6%となり、昨年からの大きな変化はありませんでした。年代別では、高年代層の数値が高いという例年同様の傾向はあったものの、これまで50代・60代寄りだった40代の数値が、節水を「意識している」70.0%（昨年比12.3ポイント減）、節水を「行っている」69.7%（同10.3ポイント減）と大きく減少し、20代・30代寄りの数値となりました。



Q.水を出しっぱなしにすることに罪悪感があるか？（6択+どちらともいえない）

◇節水を行う要因には罪悪感も関与？

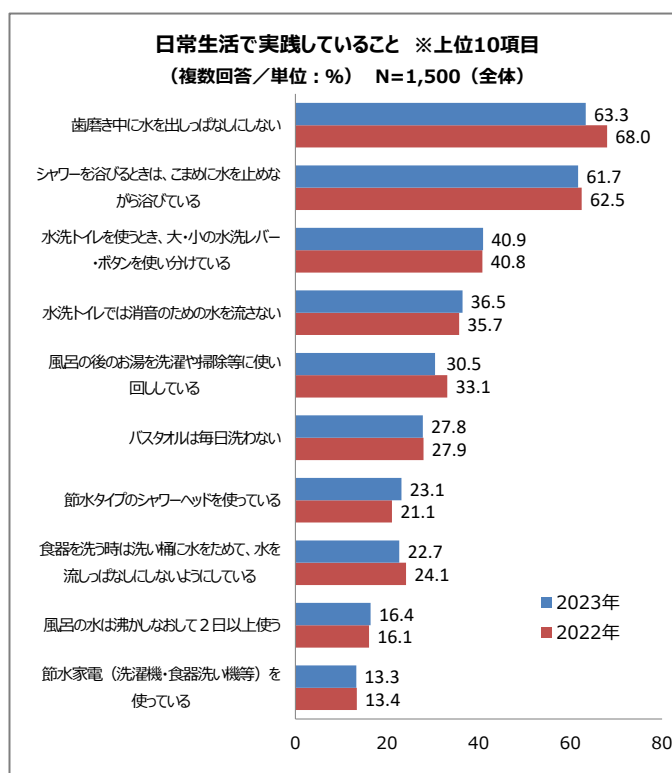
水に関する考え方への共感度を探る趣旨の設問の中で、「水を出しっぱなしにすることに罪悪感がある」についてどう思うかをたずねたところ、「罪悪感がある人」（「とてもそう思う」+「そう思う」+「ややそう思う」）は73.0%。これを節水の実施有無でみると、節水実施者で「罪悪感がある人」は81.6%、非実施者では44.7%となり、罪悪感が節水を行う要因の一つになっている可能性がうかがえました。



Q.日常生活で実践していることは？（14択+その他+実践していることはない）

◇上位項目に変化なし

節水や水の再利用方法に関する項目を選択肢にあげ、日常生活で実践していることとして聞いたところ、1位「歯磨き中に水を出しっぱなしにしない」（63.3%）、2位「シャワーを浴びるときは、こまめに水を止めながら浴びている」（61.7%）、3位「水洗トイレの大小レバー・ボタンを使い分ける」（40.9%）、4位「水洗トイレでは消音のための水を流さない」（36.5%）、5位「風呂の後のお湯を洗濯や掃除等に使い回している」（30.5%）となり、上位5項目の順位に変化はありませんでした。

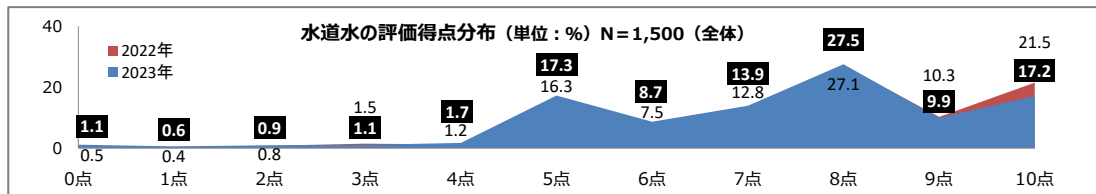
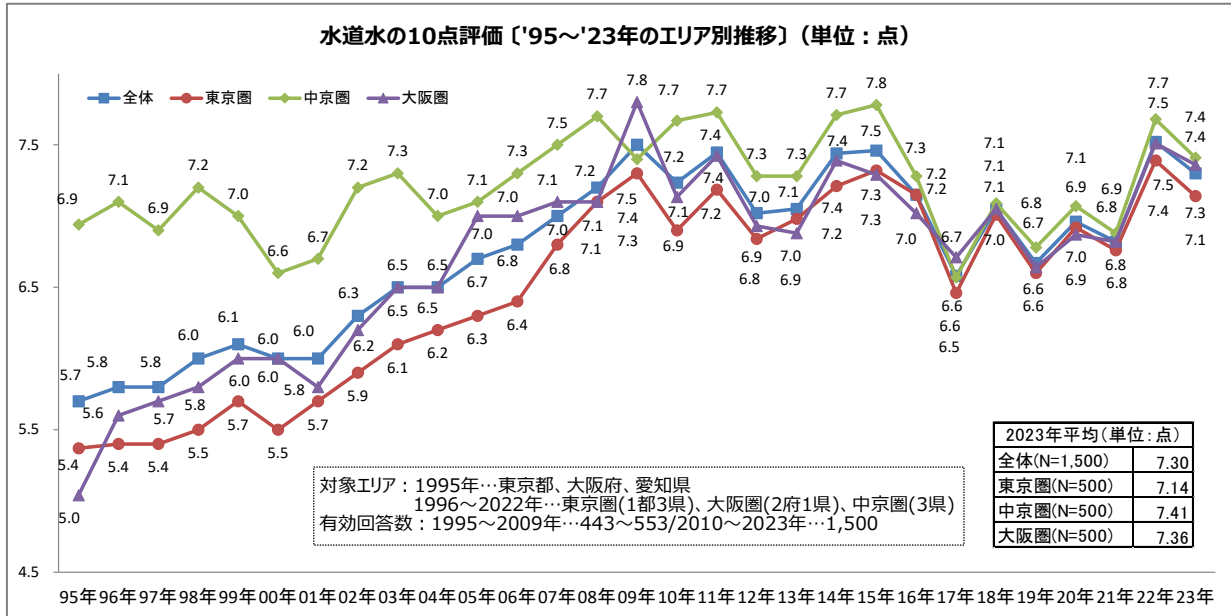


水道水に関する意識

Q.水道水を10点満点で評価すると？（0～10の整数を自由回答）

◇10点満点回答者が減少し、平均点がやや低下

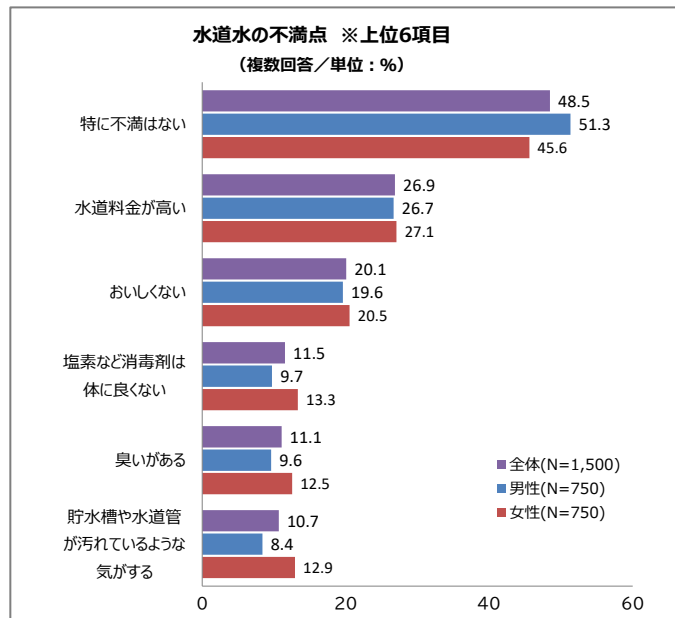
水道水の10点満点評価は、全体の平均が昨年比0.22ポイント減の7.30点でした。居住地別では、東京圏が0.25ポイント減の7.14点、中京圏が0.27ポイント減の7.41点、大阪圏が0.15ポイント減の7.36点と、いずれも昨年からやや低下しました。点数別回答率は、10点満点の回答者が昨年比4.3ポイント減の17.2%でした。



Q.水道水について不満を感じていることは？（8択+その他+特に不満はない）

◇「不満なし」が5割に迫る勢い。「料金高い」は3割を下回る

水道水への不満については、「特に不満はない」（48.5%）が5割に迫る勢いで1位。2位（不満のトップ）の「水道料金が高い」（26.9%）は、3割を下回りました。性別では、男女ともに1位「特に不満はない」（男性51.3%、女性45.6%）、2位「水道料金が高い」（男性26.7%、女性27.1%）となりました。なお、今年は女性の「特に不満はない」が増加（昨年比7.9ポイント増）し、「水道料金が高い」が減少（同8.4ポイント減）したことにより、例年これらの項目で見られた男女間の数値の開きがありませんでした。



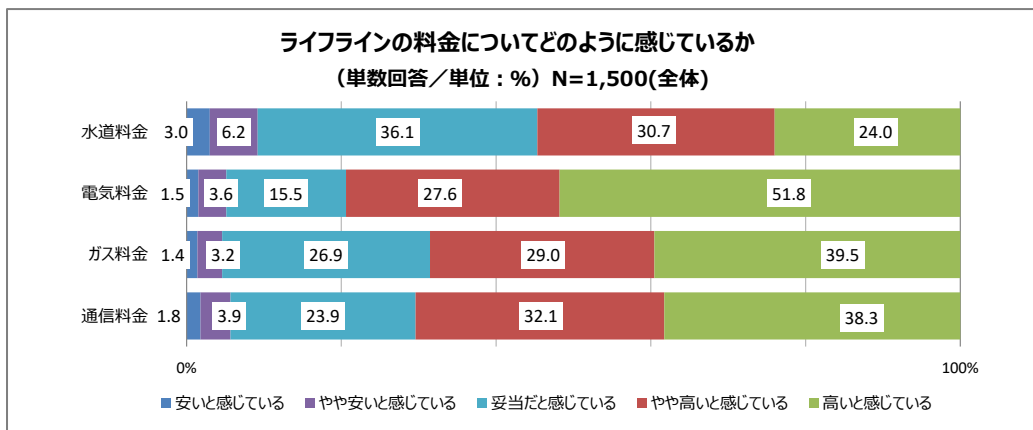
水と生活・文化

昨今、さまざまなものの値上げが相次ぐ中で、水道や電気をはじめとした日常生活に不可欠なライフラインの料金について、生活者はどのように感じているのでしょうか。今回、このような状況下だからこそ新たな試みとして、これらの料金の妥当性を問う趣旨の調査を実施しました。

Q. ライフラインの料金についてどのように感じているか？（それぞれ5択）

◇3人に1人以上が水道料金は「妥当だと感じている」

水道、電気、ガス、通信の各料金について、現在どのように感じているかを「安い」「やや安い」「妥当」「やや高い」「高い」の5択でそれぞれ聞いたところ、どのライフラインも「安いと感じている人」（「安い」+「やや安い」）は1割に満たず、「高いと感じている人」（「高い」+「やや高い」）は電気料金の79.4%を筆頭に、通信料金70.4%、ガス料金68.5%、最も少なかった水道料金でも54.7%と過半数を超えました。ただ、水道料金は「妥当だと感じている」（36.1%）が4つのライフラインの中で最も高かったことに加え、唯一、「妥当」が「高い」（24.0%）と「やや高い」（30.7%）を上回りました。前述の「水道水について不満を感じていること」（11頁）では、「水道料金が高い」が不満のトップにあげられましたが、他との相対的な評価における不満度は低いようです。



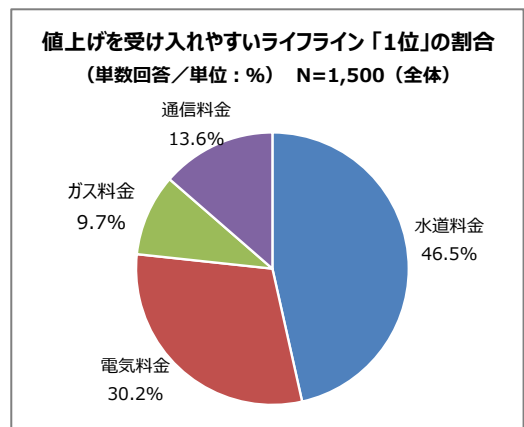
Q. 料金の値上げを受け入れやすいライフラインは？（項目ごとに順位を選択）

◇値上げを最も許容できるのは「水道料金」

最も許容できないのは「通信料金」

ライフライン料金の値上げに対する許容度を探るべく、水道、電気、ガス、通信の各料金について、「今後も安定的なサービスによる快適な暮らしを手に入れるために、値上げを受け入れやすいのはどれか」をたずね、それぞれに1位～4位の順位をつけてもらったところ、「1位」の割合が最も多かったのは「水道料金」（46.5%）で、2位「電気料金」（30.2%）、3位「通信料金」（13.6%）、4位「ガス料金」（9.7%）となりました。ちなみに、「4位(最下位)」の割合は「通信料金」が59.9%で最も多く、「水道料金」は最も少ない11.3%でした。

昨年実施した日々の生活の中で無いと困るものについての調査では、「電気」が断然のトップでしたが、料金の値上げに対して寛容なのは「水道」であることが、今回の調査で明らかになりました。



値上げを許容できるランキング

| | | |
|----|------|-------|
| 1位 | 水道料金 | 46.5% |
| 2位 | 電気料金 | 30.2% |
| 3位 | 通信料金 | 13.6% |
| 4位 | ガス料金 | 9.7% |

※「1位」の回答率順位

値上げを許容できないランキング

| | | |
|----|------|-------|
| 1位 | 通信料金 | 59.9% |
| 2位 | 電気料金 | 14.5% |
| 3位 | ガス料金 | 14.2% |
| 4位 | 水道料金 | 11.3% |

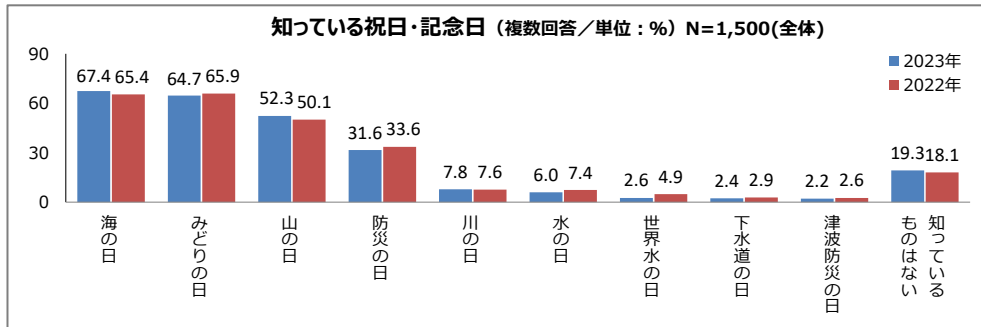
※「4位」の回答率順位

Q.知っている祝日・記念日は？（9択+知っているものはない）

◇「水の日」の認知率は6.0%で過去最高の更新ならず

水や自然にかかわる祝日・記念日の認知は、「水の日（8月1日）」の認知率が一昨年4.7%、昨年7.4%と2年連続で過去最高値を更新していましたが、今年は1.4ポイント減の6.0%となり、3年連続の過去最高値更新とはなりません。また、「世界水の日（3月22日）」（2.6%）や「下水道の日（9月10日）」（2.4%）の認知率についても同様に低下しました。

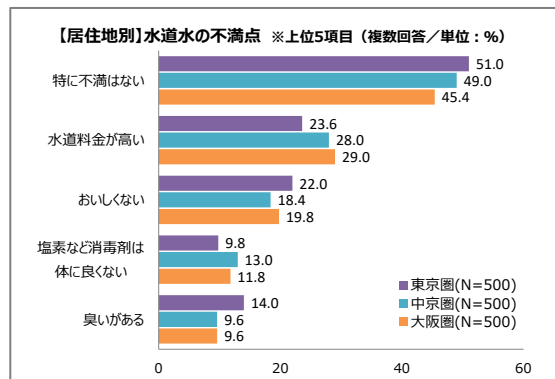
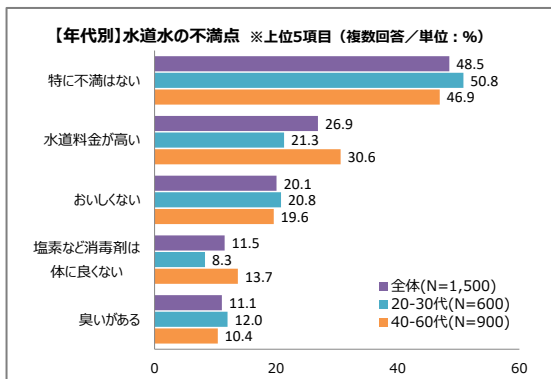
ミツカン水の文化センターでは、今後より一層「水の文化」に関する普及・啓発への取り組みを推進し、その取り組みが、こうした水にかかわる記念日などの認知向上の一助になることを願っています。



沖大幹先生による解説 ～Oki's View～ ③

【水道料金】

水道への不満があるとしたら例年「水道料金が高い」が筆頭であり、若者(21.3%)に比べてシニア層(30.6%)のそれなりの割合が不満を表明している。東京圏(23.6%)に比べて中京圏(28.0%)や大阪圏(29.0%)の方がやや料金への不満の割合が高いが、料金的には県単位ではどこも月20m³使用で約2400-2700円程度と大差はなく、むしろ他の物価や賃金水準の差が影響している可能性がある。



水道への不満について、実は「特に不満はない」が全体で48.5%を占め最も多く、強いて不満点をあげるとしたら水道料金がもっと安ければそれにこしたことはない、という評価ではないかと推察される。

実際、水道料金の妥当性(13頁参照)については妥当だと感じている人が36.1%で、「高い(24.0%)」や「やや高い(30.7%)」を合わせてもようやく半数を超えるくらいである。これは、高いと感じている人が電気料金(51.8%)やガス料金(39.5%)、通信料金(38.3%)に比べて圧倒的に少なく、また、許容できる値上げの順位付けで全体の46.5%の人が水道料金の値上げを一番にあげていて、電気料金(30.2%)や通信料金(13.6%)、ガス料金(9.7%)を引き離して断トツの支持を得ており、値上げを許容できるライフライン料金の最下位(4位)に評価した人が水道は11.3%で、ガス(14.2%)、電気(14.5%)、通信(59.9%)に比べてもそんなに嫌がられてはいないことからわかる。

ただ、これは水道が支持されているから、というよりは単に安いせいもあるかもしれない。2023年4月分の総務省統計局の家計調査報告によると、2人以上世帯で電気代が月額13,617円、通信費用11,373円、ガス代6,796円に対し上下水道料金が4,908円と、下水料金を加えても水代の負担が一番少ないのである。ちなみに、お茶やコーヒー・ココア、他の飲料を含んだ飲料は約5,146円で、上下水道料金よりも多い金額を平均的には支払っていることになる。

人口密度が高く効率的な都市部で大規模に水供給を担っている一部は良いとしても、全国に約1,300ある水道事業体の1/3は原価割れで給水する赤字経営となっており、適切な料金体系への修正は、安全で安心な水を安定して持続可能に供給するためには不可欠である。公共料金は安ければ安いほど良いというわけではなく、適切なサービスレベルを維持するためにも、ぜひ各事業体の関係者は、本調査結果に勇気を得て料金見直しを検討されてはどうか。

沖大幹先生プロフィール

沖 大幹（おき たいかん）
東京大学 大学院工学系研究科 教授
「ミツカン水の文化センター」アドバイザー

1964年東京生まれ。1993年博士（工学、東京大学）、1994年気象予報士。1989年東京大学助手、1995年同講師等を経て2006年より同教授。2016年より21年まで国連大学上級副学長、国際連合事務次長補を兼務。専門は水文学（すいもんがく）で、地球規模の水循環と世界の水資源に関する研究。書籍に『水の未来』（岩波新書、2016年）、『水危機 ほんとうの話』（新潮選書、2012年）など。生態学琵琶湖賞、日本学士院学術奨励賞、日本人として初の国際水文学賞Doogeメダル受賞（2021年）やヨーロッパ地球科学連合John Daltonメダル（2023年）など表彰多数。



「ミツカン水の文化センター」と「水にかかわる生活意識調査」について

創業の地である愛知県の知多半島は水が得にくい土地柄だったため、文化元年（1804年）の創業時より、良質な醸造酢をつくる為に山から木樋で水を引くなど、水の苦労を重ねてきました。また、廻船で尾張半田から江戸まで食酢を運んで社業の基礎を築くなど、水と深いかかわりを持ってまいりました。

このように創業以来、「水」の恩恵を受け、「水」によって育てられてきたミツカングループは、1999年に「水の文化センター」を設立し、「水」をテーマとする社会貢献活動を行っています。

「水にかかわる生活意識調査」は、1995年にセンターの活動開始に先駆けて、「日常生活における水のかかわり」について調べてみようと考えたのがきっかけで始まり、さまざまな生活の中での水への意識を、四半世紀にわたり調査し発表しています。